

# 学びをひろげる

(第25回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

## まる (わたしと○人の会)

日時 2018年3月3(土) (1時45分～5時)

場所 都島区民センター (大阪市都島区中野町2-16-25 ☎06-6352-6100)

※府立東高校の道路を隔てた向かい側、都島区役所の隣

参加費 500円 (会場費・運営費等) ※学生は、無料です。

一人で拡がらない学びを○人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合しましょう。



地下鉄長堀鶴見緑地線、JR環状線「京橋」下車 徒歩10分  
JR環状線「桜ノ宮」・東西線「大阪城北詰」下車 徒歩10分  
地下鉄谷町線「都島」下車 徒歩15分

### 第24回の内容

#### 前文部科学事務次官 前川喜平さんを囲んで学習会 『日本の教育の行方』

定員を大幅に超える申し込みがあり、お断りしてしまった多くの方がいました。63名の参加者でディスカッション形式で進めました。予め参加者をお願いしたアンケートをスタッフで整理して4つの「討論の柱」を設定。前川さんは、先に送ったそのアンケートをじっくり読み込んで出席されていたように感じました。

- ①文科省でやってきたこと、やりたかったこと
- ②差別と教育～インクルーシブ教育、民族教育を中心に～
- ③子どもと学校と社会～いじめ、貧困、学力、道徳...～
- ④総括討論～自分にやれること、自分がやりたいこと～

テーマごとに、前川さんが話し、それを受けて参加者で話し合う方法で進めたのですが、最初から「もう一つあります、『やりたくなかったけれど、やってきたこと』と会場を笑いで包み、時に軽妙で時に辛辣で、豊富な知識と、緻密な記憶に支えられた話は、大胆に政治の舞台裏にまで踏み込んで、聞く者の耳目を惹きつけて離しません。「日本の官僚には優秀な人がいるものだ」、ふとそんな思いがよぎりました。

予定通りに進むわけがありません。時間の許す限り話し合いを続け、前川さんも本音を吐きだしてくださったのではないかと思います。前川さんの話や、参加者とのやり取りから、私たちは教育や学校、社会、政治、国のあり方...など、「いま」を考え、変革するヒントや道筋を、例えば「面従腹背」という「技」も含めて、見いだせるのではないのでしょうか。そしてフッと背中を押して、前に歩き出す勇気をもらえたような気がしました。



研究会の様子

### 今回 第25回

#### 特別の教科「道徳」を考える・第3弾 「東日本大震災を学習する」松森俊尚 報告提案(“学びの会”スタッフ)

私が現役最後の2011年度、5年生の道徳を担当したとき、迷うことなく「東日本大震災」を学習しようと決めました。授業が進むうちに、消防隊員の父親が救助隊で派遣されたことが分かり、ゲストティーチャートして学年授業に参加してもらいました。社会の日本の漁業と重ねて、子どもたちと被災地漁民との文通が生まれました。手紙を教材に授業が展開します。授業は1年続きました。学習が終わったわけではありません。翌年に、家族で女川の役所をたずねた子どもがありました。あるいは、高校生になった人たちの中で、今も学習を続けている人があるかもしれません。

今度の「教科化」で、1年かけた授業はできるのか。これは、文科省のいう「主体的で、対話的で深い学び」といえるのか。前川さんが言われた「特別の教科」と「教科」は「ぜんぜん」ちがう。「ウミウシと牛ほどはちがわないが、シマウマと馬くらいちがう」。「指導要領よりも『解説』を読んでほしい。精いっぱい抵抗をしている」などのサジェッションも参考にしながら、「道徳」の授業づくりについて具体的な問題を考え、実践の可能性を探りたいと思います。

学びをひろげる」スタッフ 堀 智晴、松森 俊尚、山本 卓雄、松井 直哉

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☎gakimon57tm@ezweb.ne.jp ☎matumori@crux.ocn.ne.jp)

山本 (☎yamamoto5.cham@gmail.com) 堀 (☎hori720@hotmail.com)

★次回第26回研究会は、日時・場所・内容が決まり次第お知らせします。★